

は シナを剥ぐ

[伊吹町]

シナは山のあちこちで見られます。林の中では割と控えめな樹木ですが、その樹皮からは強靱な繊維が採れ、縄や布を作る素材として最も有力な木の一つでした。大切な縄はシナで作られてきました。先日、弥高寺跡でシナ剥ぎをしました。伊吹山文化資料館の資料と実習材料にするために、「40年ぶりや」という弥高のおじさん2人にご足労願いました。シナ剥ぎの時期は6月20日から7月2日頃です。この頃のシナは、樹皮と木質部の間が水々しく、白くぬるぬるしているので、ここで「がぼっ」と皮がむけます。面白いほどむけます。今回は、径10~20cmの木を4本切り倒して、1m位に切り分けて皮を剥ぎました。切り分けた木の樹皮に鎌で1ヶ所切り口を入れ、幅3~5cmほどをむき下ろします。そこから指を入れて「がぼっ」と剥ぎ、指で開いていくと、最後には木と皮がつるつと離れ落ちます。

むいた皮は、3つに折り畳んで一抱えほどの束にし、1ヶ月ほど水に浸け、外皮を捨てて中の3枚の薄皮だけにし、繊維を取り出します。縄文時代から培われてきた文化です。
(高橋順之)



- ① シナの皮をはく
- ② 皮を束ねる
- ③ 流水にさらす

情報BOX

- ◆ 伊吹町教育委員会では下記の報告書を刊行しました。『起し又遺跡発掘調査報告書Ⅱ』(伊吹町文化財調査報告書第11集)
 - ※ 堅穴住居・配石遺構や縄文時代中期後半から後期初頭の土器群を掲載。
- 『上平寺城跡遺跡群分布調査概報Ⅰ 上平寺館跡』(伊吹町文化財調査報告書第12集)
 - ※ 北近江守護京極氏の城館跡と庭園遺構の測量調査の概要を掲載。
- ◎ 問い合わせ先
伊吹町教育委員会生涯学習課 ☎(0749) 58-1121
- ◆ 伊吹山文化資料館企画展示のおしらせ
「植物画の世界 — 伊吹山の花々 —」
8月6日(木)~9月15日(火)
- ◎ 問い合わせ先
伊吹山文化資料館 ☎(0749) 58-0252
- ◆ 山東町教育委員会では、平成10年4月にオープンしました柏原宿歴史館の展示資料や、中山道柏原宿を写真やイラストで紹介した『柏原宿ガイドブック』(1部200円)を刊行しました。
- ◎ 問い合わせ先
山東町教育委員会生涯学習課 ☎(0749) 55-2040

◆◆ 編集後記 ◆◆

『佐加太』第8号が出ました。相変わらずの変則発行で迷走を続けています。坂田郡では、今年2つの資料館が開館しました。それぞれの町の特長を生かした工夫がされ、これから地域の拠点施設としてさまざまな活動や情報発信がおこなわれることなのでしょう。本誌上でも、その都度話題をお届けしたいと思いますので、ご期待ください。

次号は、郡内4町の企画展示「みち・ひと・まち — 坂田郡の街道と宿場展 —」の特集号です。坂田郡社会教育研究会文化財部会、4年に1度の大イベントです。

坂田郡文化財ニュース

佐加太 第8号

発行 平成10年8月1日
編集 坂田郡社会教育研究会文化財部会
事務局 〒521-0314 滋賀県坂田郡伊吹町春照37
伊吹町教育委員会生涯学習課
TEL 0749 (58) 1121
印刷 立木印刷



佐加太とは、「和名抄」東急本の坂田郡の訓を引用しました。

第8号

1998年8月1日

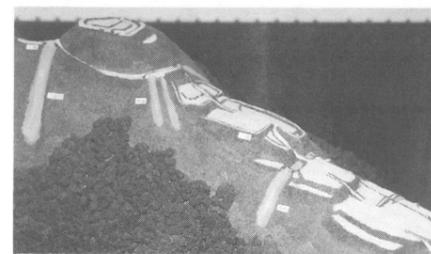
滋賀県坂田郡社会教育研究会
文化財部会

まるごと伊吹山 — 手作りの資料館開館 — [伊吹町]

滋賀県内でも縄文遺跡の多い地域として知られている伊吹山麓。伊吹山文化資料館には、縄文時代晩期を代表する杉沢遺跡をはじめ、近年の発掘調査で明らかになった起し又遺跡など、町内出土の遺物が多数展示されています。杉沢遺跡の合せ口甕棺は、昭和12年に小林行雄氏らにより郡内で初めておこなわれた発掘調査で出土し、一躍この遺跡を全国的に有名にした遺物で、展示されているのは平成7年度に発見された9組目の甕棺です。また、県内で唯一発見されている御物石器(県立琵琶湖文化館所蔵品)や大小の石棒など、杉沢遺跡の豊富な種類の石器を見ることができます。起し又遺跡は、中期から後期を中心とした山間部の遺跡で、番の面遺跡(山東町)や醍醐遺跡(浅井町)とともに、中期に花開いた伊吹山麓縄文文化の代表的な集落跡です。展示されている土器は、琵琶湖沿岸とは違う、山麓文化圏独特の刺突を執拗に施した大型山形突起をもつ土器など見応えがあります。さらに、坂田郡の地域性から、隣接する美濃地方はもちろん、東海・信州・飛騨から関東・瀬戸内



民具の展示



上平寺城模型

地方の特徴をもつ土器も展示しています。豊富な石鏝をはじめとする起し又遺跡の石器類、

剣を模した装飾石剣(伊吹遺跡:琵琶湖文化館所蔵)など、考古展示室は縄文時代を中心に、伊吹山の山岳寺院、京極氏の上平寺城館跡の遺物と遺跡模型やパネルを豊富に用いて、わかりやすく展示しています。

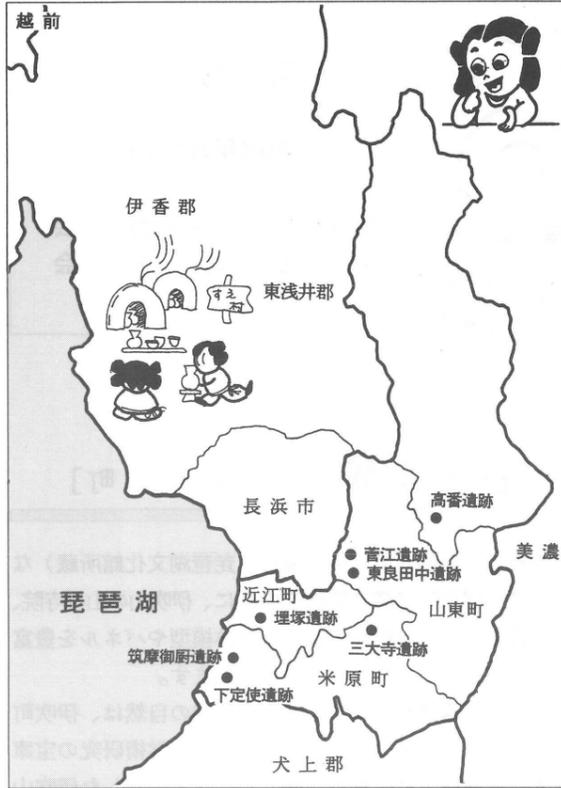
これらの遺跡をはぐくんだ伊吹山地の自然は、伊吹町の歴史と文化の源で、その雄大な自然は学術研究の宝庫です。赤道直下に生まれ、移動しながら隆起した伊吹山の生い立ちを物語る豊富な化石。全山1,200種類の草木植物。その内約300種の薬草は、延喜式にその名が知られ、山岳修験者に活用され、日本植物分類学の父・牧野富太郎博士もたびたび伊吹山に足を運びました。滋賀県で見られる種類のほとんどが見られる伊吹山の蝶や石灰岩地特有のカタツムリの豊富さ。観測史上世界記録の積雪11.28mを記録した伊吹山の気象など、さまざまな伊吹山の姿が展示されています。



縄文土器

伊吹山麓に暮らした人々の生活用品、生産用具も当時の様子を再現して展示し、わら細工なども、友の会会員により体験することができます(要連絡)。(高橋順之)

開館時間 午前9時30分~午後5時
休館日 毎週月・火曜日、祝日の翌日
お問合せ 伊吹山文化資料館
滋賀県坂田郡伊吹町春照77番地
TEL (0749) 58-0252



坂田郡の遺跡案内 奈良・平安時代 (集落跡・窯業遺跡)

伊吹町高番遺跡の発見によって奈良・平安時代の集落遺跡が郡内全域で確認されるに至った。この時代の集落では、住居構造に大きな変化が認められ、それまでの竪穴住居に代わって掘立柱建物が一般建造物の主流になる。米原町三大寺遺跡では、寺院跡に隣接して、炉組に平瓦を利用した7世紀後半代の竪穴住居と、一辺1m方形の掘り方を持つ8世紀代の掘立柱建物が発見されている。

一般の集落では、条里制の普及が始まり、条里の軸方位に規制された建物が、米原町下定使遺跡、近江町塚遺跡などに見られる他、多数の掘立柱建物群で構成される豪長クラスの屋敷跡も山東町東良田中遺跡で確認され、琵琶湖に面した米原町筑摩御厨遺跡では、奈良時代末の宮内省大膳式に関連したと考えられる遺物が出土するなど、各々の遺跡に性格差が認められるようになる。

また山東町菅江遺跡では、奈良時代の須恵器窯が発見され、全国に広がる「スエ」遺跡の一端が明らかにされている。

ふくでんじていえん 名勝・福田寺庭園の修復

[近江町]

福田寺は、滋賀県坂田郡近江町長沢に所在し、北国街道に面する浄土真宗本願寺派の寺院である。

伽藍の北西の一角には、湖北の小谷城より移築されたとされる「御殿」と呼ばれる茅葺き建物が建ち、その南正面に国の名勝に指定される福田寺庭園が所在する。

この庭園は昭和32年に滋賀県の指定名勝となり、同49年に国の名勝となった江戸時代初期の枯山水庭園である。

庭園の中央築山には、三尊石と呼ばれる中心的な存在の石組が据えられているが、ここ数年間において徐々に前方へ傾きはじめ、平成8年3月の降雪時に基礎部が緩み、倒壊してしまった。

庭園を所有管理する宗教法人福田寺では、文化庁・奈良国立文化財研究所・滋賀県教育委員会・近江町教育委員会と協議を重ね、平成9年度に修復工事を実施した。この調査では、トータルステーションによる庭園全域の測



修復された庭園

量に始まり、ラジコンヘリコプターを使ったき損部分の細部写真測量、さらには石組を積み直す修復工事を行い、当初の状態に復元された。

広義の文化財のなかでも、建造物の解体修理や、美術工芸品の修理は、たびたび実施されているが、名勝庭園の修復は大変珍しいものである。(宮崎幹也)

柏原宿歴史館オープン

[山東町]

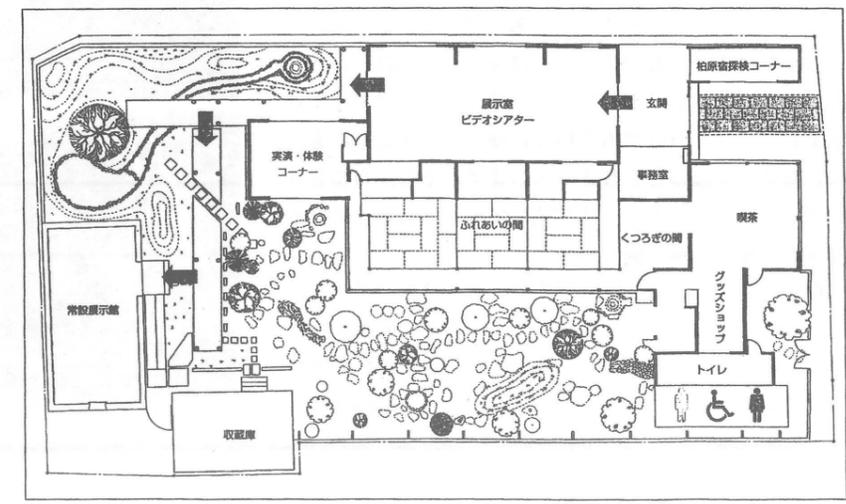
滋賀県の東の玄関口にあたる山東町は、古くより東国・西国・北国を結ぶ交通の要地として発展し、特に近世の街道整備の中で中山道が通り、柏原に宿場が開かれました。

こうした山東町に多くの文化をもたらしてきた“中山道柏原宿”にスポットを当て、町並みや景観などの歴史的遺産を生かす拠点施設として、街道沿いの旧家を購入しました。

現在の建物は、大正6年に建てられたものですが、江戸時代以降の商家の伝統的建築様式を引き継いでおり、柏原宿の歴史的町並みによく調和した重厚な外観を持った建物になっています。

今回、そういった伝統的雰囲気配慮しながら、母屋には山東町の文化・自然などをテーマとした展示室、実演・体験スペース、事務所などを、2棟の土蔵には柏原宿をメインテーマとした展示室と収蔵庫を設けました。そうした経過を経て、平成10年4月10日(金)にオープンしました。皆さまのお越しをお待ちしております。

- 開館時間 午前9時から午後5時まで (入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日・祝日の翌日
- 交通機関 JR柏原駅下車 徒歩約8分
名神関ヶ原ICから約10分
名神・北陸自動車道米原ICから約10分
- お問合せ 山東町立柏原宿歴史館
滋賀県坂田郡山東町柏原2101番地
TEL (0749) 57-8020



河童型土偶 — 筑摩佃遺跡 —

[米原町]

米原町の湖辺部に位置する筑摩佃遺跡は、平成元年度の発掘調査で縄文時代早期から晩期にかけての遺跡であることが判明しました。

特に中期の遺物は豊富で、その主体をなすのは船元式、里木式という汎西日本の土器群でした。ところが、北裏C式、北屋敷式といった東海系の土器や、新保式、新崎式といった北陸系の土器も一定量出土しており、また新道式という中部山岳地方の土器も少量ですが出土しており、縄文時代に他地域と活発に交流していたことが明らかとなりました。

なかでも今回紹介する土偶の出土は注目されます。東日本では土偶は多量に出土していますが、西日本では土偶の出土例は少なく、またその形状も非常に簡略化されています。筑摩佃遺跡出土の土偶は河童型土偶と呼ばれるもので、その名の通り河童に似ています。このタイプの土偶は富山県や長野県などを中心とする地域に集中し

て出土するもので、近畿地方からの出土例は今回が初めてです。

土偶の用途については諸説がありますが、祭祀に用いられたものであることについては異論のないところ。土器の搬入については交易の結果や模倣等様々な要因が考えられますが、祭祀についてはそれぞれの地域で独自におこなわれていたにちがいがありません。筑摩佃遺跡から河童型土偶が出土したということは、この土偶を祭る人々が直接この地にやってきたことを物語っているのではないのでしょうか。(中井均)



河童型土偶